

社会に貢献できる研究・技術開発を目指そう！

田端 道彦(機械工学科)



北里柴三郎—感染症と闘いつづけた男 / 上山 明博著
青土社 2021

学生の皆さんに、私が最も敬愛する偉人の一人である、感染症学の巨星・北里柴三郎の伝記をご紹介します。

北里の伝記はこれまでも数多く出版されていますが、世界中がコロナ禍にある2021年9月に、「北里柴三郎 感染症と闘いつづけた男」が青土社から上梓されました。一見すると硬い印象の分厚い書籍ですが、2022年1月30日付の中国新聞の書評欄で「爽快な学者の痛快評伝」と大きく取り上げられたように、濃密な内容を一気に読ませる、優れた評伝ノンフィクションです。多くの確かな資料を徹底的に取材し、細密に描き出した本書は、まるで映画を見たような読後感を覚えます。

北里柴三郎については、「教科書で名前を覚えた程度で、あまりよく知らない」「野口英世ほど馴染みがない」・・・と思う人が多いかもしれませんね。北里は、ペストをはじめ、コレラ・破傷風・ジフテリア・結核・赤痢・ハンセン病など、これまで流行したさまざまな感染症と闘いつづけた、文字通り「近代日本医学の父」であり、世界中からその功績を称賛されている「世界の北里」なのです。

北里が生まれたのは、1853年、ペリーが浦賀に来航した年です。・・・ここで皆さん、考えてみてください。「ペスト菌を発見」「破傷風菌の純粋培養に成功」「抗毒素抗体の発見・血清療法を確立」・・・と北里の功績を列挙するのは簡単ですが、「黒船来る」の時代の人成し遂げるのがどれほど困難なことであったか。北里の仕事は質・量ともに、まさに驚異的・超人的な偉業と言っても過言ではありません。恩師ロベルト・コッホの指導や福沢諭吉らの援助などに支えられながら、幾多の逆境を乗り越え、自分の命を賭して研究に打ち込んだ北里。細菌学が黎明期の当時、まだ滅菌や殺菌の方法も定まってはいませんでした。北里は徹底した除菌消毒を行い、周密で正確な実験を幾度も繰り返すことによって、多くの貴重な発見を成し遂げました。

北里は研究者として、世界最先端の研究機関での地位や名誉を約束されていたにもかかわらず、それらの招聘をすべて断り、これまで培った知識と経験を日本で役立てるために留学先のドイツから帰国します。伝染病研究所などを創設し、学問的・社会的な面で日本近代医学の発展に多大な功績を残したのです。

2024年には新千円札の顔になる北里柴三郎。伝記本も益々充実していくでしょう。本書でなくても、読みやすい漫画本もおすすめですよ。2021年に集英社から出された「学習まんが 世界の伝記NEXT 感染症予防の発展につくした近代日本医学の父 北里柴三郎」は、写真や解説も多く、わかりやすい1冊です。ぜひ北里の人生に触れてみてください。